

第5学年 音楽科学習指導案（略案）

○組 計40人
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 いろいろなひびきを味わおう
 教材 ◎「美しきロスマリン」 クライスラー作曲
 ◎「白鳥」 サン・サーンス作曲
 「わたり鳥と少年」 土肥 武 作詞 平吉毅州 作曲（本時主教材）

2 本時（3／5）

(1) 目標

- ア 全体の音量のバランスを工夫して、合唱奏をすることができる。【知識及び技能】
 イ 声や楽器の音色が重なり合う響きに関心を持ち、全体の音量のバランスに気を付けて合唱奏をする活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

子供たちが、全体の音量のバランス（歌とリコーダー）について考えることができるようにするために、課題把握の段階で音量のバランスのよい範奏と、そうでない範奏とを比較鑑賞する活動を取り入れるようにする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 「わたり鳥と少年」を歌詞唱する。 2 「わたり鳥と少年」の範奏を聴き、本時の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 歌とリコーダーの音量のバランスに気を付けて演奏しよう。 </div> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 歌い方やリコーダーの音色が曲の感じに合っているな。 ・ 1回目の演奏の方が、音量のバランスがいいぞ。 </div>	(分) ↑ 10	○ 気持ちを込めた歌詞唱ができるように、前時にどんなことを学習したかを想起させるようにする。 ○ 本時のめあてを導き出すために、音量のバランスのよい範奏とそうでない範奏とを聴かせるようにする。 ○ 無理なくリコーダーの旋律把握ができるように、階名唱の活動から取り組ませるようにする。
課題追求	3 リコーダーの旋律を練習する。 (1) 旋律を階名唱する。 (2) 2小節ごとに区切って練習する。 (3) 全体を通して練習する。 4 歌とリコーダーで合唱奏をする。 (1) 全体を分けて演奏する。 (2) 音量のバランスのとり方について話し合う。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 歌とリコーダーの人数が同じだと、リコーダーの方が大きくなってしまふよ。 ・ 歌の人数を多めにした方がバランスのいい演奏になるかも。 </div>	↓ 30	○ リコーダーの技能の個人差に対応するために、教科書の楽譜よりも平易に演奏できる楽譜を別に準備しておくようにする。 ○ うまく演奏することができない子供に対応するために、正しい指使いを助言したり、背中を軽く叩いたりしながら拍の流れにのせて演奏させるようにする。 ○ 自分たちの演奏が音量のバランスのとれている演奏になっているかを判断するために、全体をグループに分け、相互発表・鑑賞できる場の設定を行うようにする。
表現の工夫	(3) 人数を工夫して練習する。		
相互発表・鑑賞	5 相互発表・鑑賞をする。	↓	○ 次時に向けて意欲がもてるように、音量のバランスなど演奏のよかったところ称賛する。
まとめ	6 本時の学習のまとめをする。 <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ・ 音量のバランスがよくなるように演奏することができました。 ・ リコーダーをまちがえずに吹けるようになりました。 </div>	↑ 5 ↓	○ 本時の学習を振り返ることができるようにするために、わかったことやできるようになったことを発表させるようにする。